

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会

表浜地域づくり情報誌

し お さ い

地域に残る史跡や昔から受け継がれてきた文化の意味や経緯を知る人は、時代と共に少なくなっています。

日々移り変わる文化を追うばかりでなく、時には変わらず残るものに目を向けてみませんか。私たちが本当に大切にすべきものが見えてくるかもしれません。

潮騒



CONTENTS

- ◆特集「地域の史跡・文化探訪」
- ◆表浜むかし話「おそでの山」 ◆協議会の概要
- ◆谷ノ口総合整備促進協議会
- 【豊かなむらづくり全国表彰事業】東海農政局長賞受賞の紹介
- ◆平成27年度事業計画

史跡・文化探訪 前編

地域を知ることは歴史を知ることから始まります。
東部太平洋岸地域にも多くの史跡や文化が遺されています。
今回は、次号に続く特集記事(前編)として、大草校区・神戸校区に遺る史跡・文化をご紹介します。



惣作古窯跡

大草校区

ざれ歌碗と惣作古窯跡

県道大草豊島線で大草に入ると志田坂という長い坂があり、その途中に惣作古窯跡はある。約千年前、平安鎌倉の時代に渥美半島全域で盛んに陶器が焼かれていた頃のもので、この惣作古窯は坂の片側に21基の窯跡が確認された、規模の大きな場所である。

その窯跡の一つからざれ歌の碗が発見された。その器に紋様と和歌が書かれており、愛知大学の元学長・久祖神氏によって解読された。

ざれ歌は男女の赤裸々な情愛が表され、2首へラ書きされている。

平安時代の平仮名文化とざれ歌、都で流行っていた文化がこの地で発見されたことは、都との密接な交流のあった証である。

この碗は全国的にも類のない貴重な文化財である。大草の地域にはまだ多くの古窯があり、日常使う茶碗や小皿と共に壺などの名品、逸品も作られていたと思われる。



市有形文化財「ざれ歌碗」

室町時代の宝憧寺跡と古井戸

宝憧寺は室町時代の武将一色七郎の菩提のため、為戸田宗光が建立(1480年代)した寺であった。七郎は都人で渥美郡代を勤めた人物である。

境内は七郎の旧屋敷地で約1ヘクタールの広さがあった。小高い台地になっていて眺めが良く、東に小川が流れ、南は今の本郷神社方面に連なっていて、^{ぶひょう}武兵屋敷、狂言場と呼ばれる地があり、昔が偲ばれる。

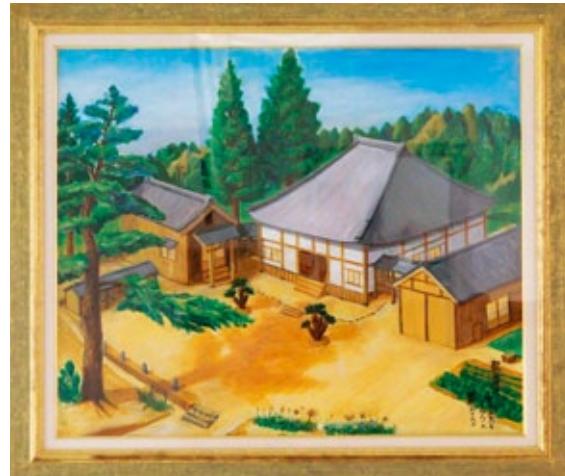
本堂は奥行4間幅3間の寄棟造り、本尊は金箔の觀音菩薩像であった。

田原城主の庇護により、長く繁栄していた宝憧寺であったが、年を経て昭和の時代に廃寺となり、境内地も豊川用水通水時に農地となった。

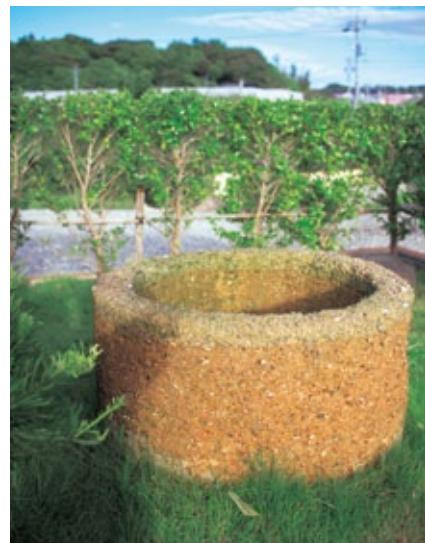
しかしながら、その一角に古井戸が昔ながらの姿で残っている。今でも冷たい水が湧き出てくるのだが、この井戸が昔を語る証である。

仲秋の名月の宵には、井戸横の広場で五百年前に一色七郎も見たであろう大草の月を眺め、御抹茶を飲む会を催している。毎年二百人以上の人人がこのお月見会に集まってくる。

こうした誇れる歴史や文化を、子どもに、また地域に語り継ぎたいものである。



在りし日の宝憧寺全景



今に残る五百年前の井戸



横田弘道さん

大草の歴史と文化を学ぶ会会長

約二千年前の弥生時代の御園遺跡が大草の良さを物語る。昔汐川沿いに人々が住み始め、次第に海側に移り住んだ。

約千年前に渥美一族が住み、大泉寺を建立した。その後から焼き物の生産地となり、数多くの窯跡が残る。

現代に一流の画家・中田恭一画伯が現れ日展に入選し、その絵は今も輝いている。

文化や歴史は風土によって作られると言われる。大草にはいい風土がある。



太田良治さん

大草の歴史と文化を学ぶ会顧問

「大草の歴史と文化を学ぶ会」は丁度十年目を迎える。4人の仲間で夜遅くまで語り合っていたのが今は53名の会員である。一日研修、半日研修、講演会と既に研修会は60回を超した。

プロの手ほどきを経て歴史甚句も作った。

ハア～ 歴史はためく大草の
歴史と文化を学ぶ会 ホイ
つづけ郷土の ヨ～ホホイ
若人ヨ～ ハア～ ドスコイ ドスコイ

静かなる奇祭「寝祭り」



久丸神社

「見ちゃいかんでね」

「バチがあたるでのん」

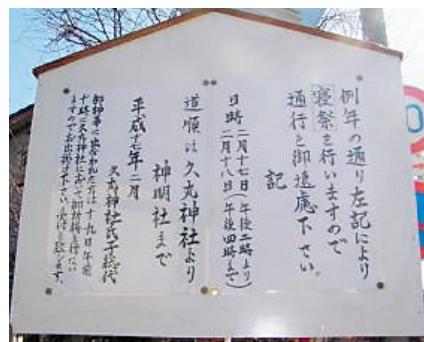
こんな風に、神戸の子どもたちが家族から注意を受けるお祭りがある。「寝祭り」である。「見てはいけない」「撮影してはいけない」。もしかしたら、「語ってはいけない」のかもしれないが、今回は神様にお許し願おう。写真で祭りを知ることができないので、皆さん、文字を読んで頭の中でイメージしてみてほしい。

神戸の漆田に久丸神社がある。南北朝の乱(1336-1392)にて追われ、渥美半島に流れついた南朝系の皇子「久丸様」を祀った神社だ。寝祭りとは、この久丸様のご神体が、久丸神社から約500m離れた神明社へ渡御する神事である。毎年2月、旧正月ごろに執り行われている。初日は久丸神社から神明社へ行脚し、二日目は神明社から久丸神社へと帰る。神職と氏子のみが神事を執り行うため、「ハレ」の「お祭り」という雰囲気ではない。

見てはいけないのは、渡御の行列そのものである。祭りが近づくと、神社周辺に「通行を御遠慮下さい」と告知する札が立つ。祭り当日、神戸小学校では、行列に遭遇しないよう子どもたちの下校時間を調整するなど配慮している。

しかし、練り歩くコースは普通の道路である。かつては農地や森で、人通りも少なかったであろうが、今では宅地も広がり、車の往来も絶えない。見ずにはいることは難しい時代になってきた。周囲の住民も、昔は雨戸を閉ざすなどしていたが、今は見ないよう注意するものの、それほど厳格に対応していない。それでも、うっかり見たことを気にする人には、神社でのお祓いかお参りを勧められているようだ。

なぜ「見てはいけない」お祭りになってしまったのであろうか。久丸様が世を忍んでいたからとか、周囲の人がそっとしておいてあげたからとか、諸説ある。ただ、起源はさておき、こうした科学的ではない「奇祭」が、住民の理解を得て伝統として継承されていることは、なんと「粹」なことではなかろうか。



渡御を知らせる注意看板



宅地の広がる中にある渡御コース



神明社

【参考文献】「ほの国通信14」(東三河広域連合)、「渥美神戸久丸神社寝祭り考」(藤原丸山著)

受け継がれる舞「青津神楽」

「ヒヤラリラ～」「トントコトン」

毎年お盆を過ぎると、夜毎、青津公民館からにぎやかな笛や太鼓の音が聴こえてくる。双葉連と呼ばれる祭り衆が、秋祭りに備えて練習している神楽のお囃子だ。

青津神楽の起源は江戸時代、二川地域から伝わったといわれている。途絶えた時期もあったようだが、今日まで伝統が受け継がれている。昭和後期までは、田原市内の多くの地域で神楽が行われていた。しかし、今は数えるほどしかない。中でも、双葉連のように20～30代の青年中心で神楽を舞っている地域は珍しい。



門神楽で怯える子どもたち

大祭では、一転して五穀豊穫を神様に感謝する厳かな「神前神楽」が奉納される。この神前の舞を任せられることは、若い祭り衆にとっては一つの晴れ舞台といえよう。

地域住民に親しまれ、心と心を結んでいる青津神楽が、これからも引き継がれていくことを願ってやまない。

練習の様子



神前神楽の様子

雌獅子が御幣や刀、鈴を持って、おどけるように舞う姿はユーモラスだ。唄や合いの手もあり、「青津神楽」という一つの伝統芸能を形作っている。

青津八所神社の大祭は、毎年10月初頭の日曜日に執り行われる。前日の宵祭りでは、青津地区すべての家庭(約100戸)を巡回する「門神楽」が行われ、家内安全と無病息災を祈り「悪魔祓い」の神楽を披露する。小さな子どもがいる家庭では、獅子が俄然やる気を見せる。迫り来る獅子の面に驚いて泣き出す子どもたちと周囲の笑い声。青津の秋の風物詩だ。

内田孝政さん

青津双葉連・連長



幼いときに見た神楽を、自分がやることは想像していませんでした。「伝統を守る」という気持ちはもちろんありますが、それ以上に、年齢に関係のないコミュニティの輪づくりを大切にしています。それはこの地域に住んでいく上でかけがえのない財産になると思います。

「おそでの山」

山田もと著

「とちの実ひろいにいかまいか。」

「それでも、あの坂でころぶと、袖を片一方おいてくるだけえな。」

「きやつ、おそがい。」

「それでも、ころばにやええがん。」

大ぜいのこともたちは、わいわいがやがや、木の枝がおいかぶさった暗い坂道へ、とちの実をさがしにいくだぞな。

ほんのひとつぱしりの坂道で、くだってしまえば自動車さえ通る県道、のぼってしまえばのげいとの畠がひらけ、志田字のお宮様もあつての、まるでやぶの中のトンネルよ。

この坂ののぼり口に、大つぶな実のなるとちの木が一本あった。どんぐりやいまめはどこにでもあるで、だあれもほしがりやせんが、きんかんより大きいこのとちの実は、こまを作ったりビー玉にしたり、げんろく袖に入れてころころさせているだけでも、うれしいものだったでのう、おばあが子どものころにはよ。

それで、なんとなくおそがいこの坂道で、ころばぬよう、ころばぬようにと気をつけ、気をつけ、とちの実をさがしたものよ。

むかし、ずうっとむかし、この坂道の西につづく山の中に、おそでという人が住みついたそうな。どこからきたやら、なぜこんな山に住みついたやら、なんにもわからんだけど……。

古くなって、がらも見えん着物も、はじめはどんなにかきれいだったらしく、長いふり袖だったとよ。その着物の袖がちぎれても、片袖だけになつても、へいきで身にまとっていたそうな。

「どつかの金持ちの娘だらあに。」

「いや、売られたすえの病いでよ。」

「いずれ、つらい目にあわされて、あんねに気がふれてしまつたずらよ。」

「あわれなことよのう。」

村のとしよりたちは、かたみにたべものや着物を、山の入り口へおいてやつたと。そいでいつとはなしに、この山をおそでの山だ、おそでの坂道だというようになつたんだと。

けど、ここでころぶと袖をおいてくるだといわれるようになつたのは、どうしてだか、とんとわからんだぞえ。

とちの木はなくなつたけど、おそでの山は今も田原町大草志田(※)に残つとる。広くなつた坂道は、むかしの田原街道のなごりで、おそでのことも忘れられたのう。

※現在の田原市大草町志田



【著者紹介】

◎1920年 神戸村大草志田生まれ
◎1939年～47年 野田尋常小学校へ勤務
◎1957年 名古屋童話作家協会入会
◎1992年 田原町町政功労者表彰
◎2004年 逝去

創刊号 ●大漁不動様
第2号 ●水の乏しかった頃
第3号 ●一本木の狐
第4号 ●海亀のお墓

第5号 ●潮の流れ
第6号 ●砂場の砂はこび
第7号 ●ほうべの井戸
第8号 ●まちがい

山田さんは、田原中部小学校のPTA機関誌「家庭と学校」へ1964年から41年間にわたつて156もの作品を寄せ、田原に伝わる民話や伝説、田原に縁のある人物の伝記はもちろん、地域の子どもたちの暮らしぶりを伝え、多くの皆さんに心豊かな安らぎを与えてくださいました。

「表浜むかし話」では、山田さんのご逝去後も、その作品を紹介させていただいております。

第9号 ●おばあちゃんの井戸塾
第10号 ●広吉じいの大松
第11号 ●寝祭り
第12号 ●神の釜と久丸さま

第13号 ●かご池の桜
第14号 ●出水はどこだ
第15号 ●三人兄弟と牛
第16号 ●源五郎さの鉢

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

■会長あいさつ

本協議会も発足以来19年を経過し、神戸・大草・六連・田原東部の4校区が一丸となり、少しずつではありますが、自立した地域活動を歩み進めてまいりました。

平成17年に策定しました谷ノ口地区整備基本計画につきましては、市と協働で、集落環境整備が進められていると同時に、「表浜ほうべの森」の整備も着手しております。協議会として、また、東部太平洋岸地域全体としても、その実現が大いに期待されているところであります。

今後も、4校区のつながりをより深くするとともに、渥美半島が一つになり、同じ海岸環境を持つ地域との連携も視野に入れながら、行政と一体となって取り組んでまいりたいと思っています。

最後に、太平洋岸の快適で住みよい生活環境整備が実現されるよう活動していくと願っております。

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 会長 彦坂善弘

今後の協議会の取り組み

〔随時実施予定〕

- ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
- ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
- ・渥美半島全体の連絡調整
- ・関係機関への要望活動等の展開

〔H27～H28実施予定〕

- ・海浜・崖森エリアの基本計画(表浜自然ふれあいガーデン)の見直し

※平成10年3月に策定した海浜・崖森エリアの基本計画について、東部太平洋岸地域の実情に即した計画に見直しを行います。

■協議会組織（平成27年10月現在・順不同）

| | |
|-----|--|
| 役員 | 会長 彦坂善弘(大草コミュニティ協議会会長) |
| | 副会長 西山正一(六連コミュニティ協議会会長)、彦坂雄三(神戸コミュニティ協議会会長)、村上誠(田原東部コミュニティ協議会会長) |
| 委員 | 市議会議員 仲谷政弘、赤尾昌昭、河邊正男、大竹正章、彦坂久伸 |
| | 漁業関係者 富田實(愛知外海漁業協同組合理事)、太田行彦(愛知外海漁業協同組合員) |
| | 市農業委員 大羽秀敏、大河照治、白井進、木下和洋 |
| | 市役所 藤井正剛(副市長)、小川金一(産業振興部長)、太田次男(都市建設部長)、前田和宏(教育部長) |
| 顧問 | 山下政良(田原市長)、山本浩史(愛知県議会議員)、中神享三(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長) |
| 事務局 | 田原市役所政策推進部(政策推進課) |

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けてのこれまでの動き

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

◇海岸保全事業(傾斜護岸)：百々海岸(H19)、離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸) ◇海岸治山事業：8箇所要望中

◆拠点地区的整備促進(市事業)

◇公衆便所整備事業：谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)

◇海岸駐車場事業：大草海岸(H11)・百々海岸(H12)

◇道路整備事業：南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16～H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)

・谷ノ口海岸線拡張(H17～)・R42公民館前交差点改良(H18～)

◇公園整備事業：表浜ほうべの森整備(H18～)

多額の予算を必要とする海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

◇メイン海岸：H10谷ノ口・H11大草・H12百々・H13東ヶ谷・H14大草H15百々・H16分散開催・H17大草・H18百々・H19東ヶ谷・H20大草・H21百々・H22東ヶ谷・H23大草・H24百々・H25谷ノ口・H26谷ノ口

◆表浜のレクリエーション

◇健康ウォーキング大会(市教育委員会)：H10東ヶ谷・H11大草・H14谷ノ口・H15百々・H17百々

◇ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成)：H13六連海岸

●農地エリアの整備 実現に向けてのこれまでの動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

◇農村総合整備事業：神戸地区(H12～H16)・大草、高松地区(H18～)・田原東部地区(H19～)

◇農用地基盤整備事業：谷熊新田排水対策(H20～) ◇農地・水・環境保全向上対策(H19～H25)

◇多面的機能支払事業(H26～)

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

ソフト事業

◆農地基盤に関する実態調査(市事業)

◇農地基盤再整備に関する調査：H11表浜全域

谷ノ口総合整備促進協議会の取り組み

～東海農政局長賞受賞～

平成26年11月12日(水)KKRホテル名古屋において、谷ノ口総合整備促進協議会が、「豊かなむらづくり全国表彰事業東海農政局長賞」を受賞しました。この賞は、地域の自然や農地等の資源を活用して、農山漁村地域の活性化に取り組んできたことが評価され、受賞したものです。

協議会ではこれまで地域の諸問題を解決するため、農産物の直売所「ええZONEマーケット」の運営や、海岸浸食対策「堆砂垣」の設置によるアカウミガメの保護、荒廃した里山整備など様々な活動に取り組んできました。また、最近では「表浜ほうべの森公園」の運営についての検討や、存続が危ぶまれた谷ノ口の地引き網を復活させるための活動も行っています。

受賞の際、福井会長は「谷ノ口に生まれて良かったとみんなに思っていただけるような地域づくりをめざし、活動を続けていきたい。」とお話しされました。今回の受賞は、地域一丸となって様々な活動に継続的に取り組まってきた成果であり、福井会長のお話からは、地域を想う気持ちが感じられます。

皆さんもこうした地域づくりの活動をぜひ応援いただきたいと思います。



豊かなむらづくり表彰式



毎週日曜日午前8時30分から開催される
ええZONEマーケット

平成27年度事業計画

■ 主要事業

第18回表浜自然ふれあいフェスティバル

- 日時 ● 平成27年11月28日(土) 午前9時～午後0時30分
※悪天候の場合は平成27年11月29日(日)に延期
- 場所 ● 久美原～大草の表浜一帯
※親睦会場は大草海岸
- 内容 ● 海岸清掃、地引網(予定)、ビーチサンダル(靴)飛ばし大会、
特産鍋の無料提供ほか
- 目的 ● 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPR
することで海岸整備の促進を図る

■ 主な推進事業

農村総合整備事業:田原市産業振興部農政課

[大草・高松地区、田原東部地区]

多面的機能支払事業:田原市産業振興部農政課

[六連・神戸・大草・田原東部各校区]

海岸治山事業:愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策:愛知県東三河建設事務所

森林公園整備[谷ノ口地区]:田原市都市建設部街づくり推進課

第17回 昨年開催 表浜自然ふれあい フェスティバル

H26
11.30
開催



予定していた日程が台風の影響で延期となり、予備日の開催となった第17回表浜自然ふれあいフェスティバル。そのような状況でも約1,300人の参加者により、久美原海岸～大草海岸までの海岸清掃を実施することができました。海岸清掃・地引網終了後には防災意識を高めるため津波避難訓練を実施しました。

メイン会場となった表浜ほうべの森公園では、フライングディスクゴルフなどを楽しんだほか、各校区の方々が作った無料の特産鍋などを味わいながら、交流を深めました。

★表浜情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会（事務局：田原市役所政策推進課） 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507

この冊子は再生紙を使用しています。